

姉妹都市派遣を通じて感じたこと

下吉田中学校
村松 佑星

私が、今回の姉妹都市派遣を通して最も印象に残ったのは日本との食生活や文化の違いです。コロラドに行く前からその違いについて実際に見て、学びたいと考えていましたが、自分の想像していた以上に違いがあり、とても驚きました。

ホームステイでは、アメリカのスーパーやゲームセンターなどいろいろなところに連れて行ってもらったり、レストランで日本では考えられないくらい大きいハンバーガーを食べに行ったりしました。また、ホームステイでは授業で行う英語と本場の英語の違いを改めて実感しました。例えば、普段何かあったときにあいさつ代わりに使うサンキューは、アメリカでは感謝の気持ちをしっかり相手に伝える表現として使われているということを初めて実感しました。今まで当たり前に使っていた英語の表現に気づかされることが多くあり、とてもおもしろかったです。そういった少しのニュアンスの違いが、コミュニケーション上、影響があることもありました。例えば、ボードゲームをした時の自分の聞き取ったルールと本当のルールが違う場面があり、ニュアンスの違いを理解することも大切なのだと感じました。このような発見もホームステイで身近に英語を感じたからこそだと思うので、今回の派遣の成果の一つだと思いました。このホームステイを通して食生活や身近な遊び、発音や喋る速さなど実際に現地に行かなければわからないことを学ぶことができました。

ホームステイを終えて、観光をする日には、オリンピックトレーニングセンターなどたくさんのお店に行きました。その中でも私が一番楽しかったのは、ロイヤルゴージブリッジです。世界一高いバンジージャンプがあるところで日本では考えられないくらい高くて驚きました。また、観光をする中でお土産の会計をするときに小銭の値段がわからず、戸惑うこともありました。そのような小さなことを繰り返して現地に慣れることで、楽しさを感じられてよかったです。また、観光を通してアメリカの土地の広さや観光地の細かいことを知ることができたり、お土産で自分の好きなものも買えたりしました。

この姉妹都市派遣では、ホームステイについて最初は不安な部分もありましたが、自分がやりたかったことや知りたかったことにふれ、常に挑戦し続けることができました。また、積極的に現地の人と関わることで日常的な様子や会話表現を学ぶことができ、自分が抱負の中に挙げていたことを達成することができました。全く異なる場所での生活で疲れや戸惑いもありましたが、一つの事がらに対して、楽しく丁寧に学ぶことができたことが一番の成果だと思います。そして今回の事業に参加させてくれた保護者とこの事業に関わっていただいた市の方々や先生方に感謝したいです。

今後、コロラドから日本にホームステイに来る人がいたら、自分がアメリカでしていただいたように、日本の文化など様々なことを伝え、コロラドと富士吉田の懸け橋になれるように頑張りたいです。そしていつか世界中の人に富士吉田の魅力やすばらしさを伝えたいです。今回のような貴重な体験をすることは、なかなかないと思うので、この体験を今後の学校での授業や、これからの生活に活かして、自分の未来につながるように一日一日頑張っていきたいです。